

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

各発達段階における臨床的課題や、発達過程で生じる様々な問題を理解するとともに、支援の視点について学ぶ。公認心理師、臨床心理士として病院や保健相談所における発達相談・心理相談の実務経験から得られた事例を通して、現代の発達臨床に関する問題点と対応について説明するとともに、地域資源と連携しながら支援するための知識と技能について講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス／発達臨床心理学とは
第 2 回	ライフサイクルと発達臨床
第 3 回	胎児期～新生児期における発達臨床とその支援：周産期臨床・障がい児・育児不安
第 4 回	乳児期における発達臨床とその支援：アタッチメント形成不全・虐待臨床
第 5 回	幼児期における発達臨床とその支援：言葉の遅れ・発達障害早期対応
第 6 回	児童期における発達臨床とその支援：いじめ・不登校・学習障害
第 7 回	思春期・青年期における発達臨床とその支援：アイデンティティ危機・ひきこもり・非行・薬物
第 8 回	成人期における発達臨床とその支援：多様化するライフスタイル・中年期危機
第 9 回	高齢期における発達臨床とその支援：対象喪失・認知症・介護・高齢者虐待
第 10 回	子どもの精神保健：発達および摂食・排泄・習癖・行動・言葉などの問題
第 11 回	精神疾患の特徴と予後：統合失調症・うつ病・摂食障害・不安障害・PTSD など
第 12 回	発達臨床におけるアセスメント：行動観察・面接法・検査法・描画法など
第 13 回	発達臨床心理学の代表的な支援方法：カウンセリング・認知行動療法・治療教育・SST など
第 14 回	子育て支援と保育・教育カンファレンス
第 15 回	総括とディスカッション：問題意識と課題の共有
第 16 回	定期試験またはレポート

到達目標

- ・各発達段階における発達の特徴と臨床的問題について説明ができる。
- ・子どもの発達臨床的問題について、その種類と主な原因について理解できる。
- ・現代社会における発達臨床的問題について、発達支援の意義と方法を理解できる。

履修上の注意

授業は、ワークやディスカッションを中心に演習形式で進めていくので、積極的に参加すること。

予習・復習

次回授業のテーマについては、事前に調べておくこと。
授業の内容によっては、予習・復習を兼ねてレポートを課すことがある。

評価方法

授業での取り組み（40%）、定期試験またはレポート（60%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業で課す課題などの評価・提出状況、および授業態度も考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。授業において配布する。
授業内で適宜、参考文献を紹介する。